



さらなる高専の発展をめざして

機械電気工学科 森野 数博

高城会のみなさま、こんにちは。気がつけば、本校での在職年数が一般科目の原田先生に次いで2番目、この4月には最古参になります。私は、学校を出てすぐ本校に勤めたこともあり、「高専」に対する想いは人一倍強く、特に「徳山高専」には、校舎が高城の丘に移った当初から苦楽？を共にしてきましたので、思い入れはより深いものがあります。学校での役割は、愛好会から立ち上げたテニス部の指導から最近の学校運営まで年齢とともに変わってきましたが、「いい学生を育てたい」、ベースには常にこの思いがありました。

いい学生を育てるにはどうすればいいか、教育の方法や高専のあり方など、さまざまな方法を模索しつつ懸命にやっているうちに我々の取り組みがいつしか中央に伝わり、JABEEや大学評価・学位授与機構での外部評価、さらには中央教育審議会にも参画することとなりました。特に平成20年の暮れに出された中教審答申では、高専発足後45年間にわたり大勢の関係者が築き上げてきた高専教育が高く評価され、財政的支援が打ち出されるなど、将来への発展を見据えた内容で答申がまとめられました。我が国の発展にとり、高専の存在感を増すことにいささかなりとも寄与できたのは嬉しいことでした。

平成24年度には高専教育制度創設50周年を迎えます。キャッチフレーズは「進化する高専」。これを契機に、高専全体がさらに存在感を高め、大きな飛躍をめざそうとしています。徳山高専もまた、高城会のみなさま共々、さらなる発展を期したいですね。みなさまのご健勝とますますのご活躍をお祈りしています。